

数学

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
数学	数学A	2	3年次・L2	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
新編 数学A(数研出版)		Study-Upノート 数学A		人文科学 選択科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年 学期 計画	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1 学期	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ問題	4 5	場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。また、様々な場合の数を求めるための公式について、それを適用するだけにとどまらず、公式が導出される過程についても理解し、様々な場合の数に応用できるような力を培う。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
	2 学期	第2章 図形の性質	第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値問題、章末問題	6 7	確率の意味とその表し方や性質について理解し、場合の数の求め方を活用するなどして、様々な事象の確率を求められるようにする。また、試行の独立について理解を深め、反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。さらに、期待値について理解し、それを求められるようにするとともに、様々な判断に用いるような姿勢を養う。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
2 学期	2 学期	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1. 三角形の角の二等分線と辺の比 2. 三角形の内心・外心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図問題	9 10 11	平面図形の様々な性質について、その証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。	1 2 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
			第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 多面体問題、章末問題	12	様々な空間図形の性質について、平面図形との違いにも注目しながら理解し、様々な事象の考察に活用できるようにする。	1 2 3 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	第3章 数学と 人間の 活用	1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算	1	様々な人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見だし、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 3
	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度	
学 習 評 価	規 準	○学習内容（定義、公式や定理）を理解できているか。 ○解法を理解できているか。 ○問題を解くことができているか。また、答えを正しく求めることができているか。	○学習内容を理解しようとしているか。 ○解法を適切に式で示すことができているか。 ○学習内容を関連付けて考えることができているか。	○学習内容に興味、関心をもち、内容を考察し、自ら調べようとしているか。 ○積極的に問題に取り組んでいるか。	
	手 段	・例題、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験	・例、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験	・例、練習、発展問題、課題 ・授業中の取組状況 ・小テスト、定期考査などの試験	
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と、学期末の総括を行い評価する。		
学習上の 留意点	・毎時間、積極的に学習に取り組むこと。 ・提出物は、内容を確認しできていることを確認して期日厳守で提出すること。 ・定期考査では、しっかりと復習をして臨むこと。				